

学位被授与者氏名	古野 利和 (ふるの としかず)
論文題目	インドネシア・スンダ地方の言語使用に関する考察 ーインドネシア語の使用空間及び位置づけの変化とスンダ語の衰退、保護ー
論文審査結果の要旨	<p>地方語としてのスンダ語研究に関して、日本では言語学領域や敬語表現の日本語との比較考察等の研究はみられるが、保護振興政策・活動の研究が少ない。その中で本研究論文は、実際の話者への定性的調査により、話者のスンダ語ーインドネシア語使用実態を示し考察を行った貴重な論文である。話者は難解な表現使用を回避しインドネシア語を代替言語とするコミュニケーション方略でスンダ語／インドネシア語を使い分ける。言い換えれば話者の関係性維持優先行動がインドネシア語の多用及び結果としてのスンダ語使用の減少につながっている。また文化保護振興政策 Rebo Nyunda プログラム実施への期待が話者から語られる。しかしそれは話者本人の期待に反しスンダ人社会内部の中心ー周辺化を強化させる危険性を内包し地方語保護振興が容易でないこと、つまり行政区の枠組みでの文化言語（教育）政策がその文化や言語の保護振興に必ずしも効果的でないことを導き出す。</p> <p>調査上の制約により、スンダ語を主たる日常言語とする話者への調査サンプルが限られたこと、文化保護振興政策に関しても政策実施関係者への調査等を行えば更に興味深い考察を深められただろうが、修士論文として十分な内容の研究であると評価できる。</p> <p>平成 29 年 2 月 9 日に、北九州市立大学北方キャンパス 4 号館 4-301 教室において、審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受け、質疑応答ののちに、全員一致で当該論文が修士(人間関係学)として十分な内容であると判定した。</p>